

教育実習レポート

[私立 K 中学校・高等学校 数学] 氏名：T.M

実習を通して、たくさんのことを学ぶことができ成長できました。最初の一週間は、参観実習で自分が高校時代に教わらなかった先生の授業も見学でき、それぞれに授業のスタイルがあり、生徒の立場では気づけなかった点を見つけることができました。参観実習の期間に学んだことを教壇に立って実践しようと考え、板書計画や教える内容の順序を練ることができたので、参観実習はとてもためになりました。また、参観実習で見学させてもらうとき、できるだけ生徒がどんな表情で授業を受けているか確かめるために、机間巡視をし、前から見て生徒の顔を見たりするように気をつけました。生徒がどんな様子で問題に取り組んでいるか、どういうことに疑問を感じているかを少し理解できたので、時間配分や教え方のパターンを複数持っておくことなど準備ができました。机間巡視の時に声をかけた生徒には、自分なりに先生の黒板での解き方以外の説明をしようと心がけました。この時、生徒に教えるということを体験できて生徒にわかってもらえたときは自信になったし、わかってもらえなかったときは他の方法を考えることにつながりました。補習に参加させてもらったときも生徒に頼ってもらえて素直に嬉しく、自分の説明で理解してもらえて良かったです。しかし、二週間の教壇実習では、教えること、伝えることの難しさを実感しました。1人の生徒を教えて反応があり、わからないところを見つけてあげられる状況とは違い、40人ほどのクラス全員の反応を見るのは難しかったです。教壇実習1日目の授業は緊張しましたが、用意していた部分は落ち着いて話すことができました。授業すべてを通して、落ちついた話し方で授業できたと思います。しかし、先生からも指摘があったように単調になってしまい一番伝えたいところがいまいちな授業になってしまいました。また、用意していた板書計画に頼りきりで、生徒に向かって話している感じが伝わらないという指摘も受けました。他にも数学の細かな部分で、少しでも言い回しがちがえば、生徒の受け取り方が変わってしまうということもありました。いろいろなアドバイスをいただき、気づくことが多かったです。

まず、教材研究では、教科書の内容をしっかりと教えないといけないと思っていましたが、本当は教科書に書かれている内容だけではなく、内容を深く読み取ることや類似する問題を作って練習させることを授業に入れる必要がありました。丁寧かつ生徒にとってプラスになることが求められていましたが、私は丁寧に内容をさらうことしかできませんでした。次に伝える態度について、生徒を授業に引きつける工夫が足りなかったと思います。また、自分の中で「ここを強調して言いたい」という思いが弱かったところも良くなかったと思います。授業での反省点はたくさんありますが、この実習が無かったら自分では気づけなかったことばかりなので役に立ちました。授業だけでなく、人に何かを伝えるときは自分の意見に自信をもって話すことが大切だということを知ることができました。

実習全体を通して、生徒とはたくさん関わることができました。特に担当クラスの生徒とはたくさん話をすることができました。実習前に挨拶に行ったときも生徒の方から声をかけてくれて、不安だった気持ちが解消されました。テスト期間をはさんだこともあり、成績のことや進路のことを相談してくれた生徒もいました。終礼と清掃を一緒に行った際に、部活のことや習い事のこと、先輩の話、家族の話などたくさん話すことができました。生徒はみな真面目で元気であり、生徒と接している時間が本当に楽しかったです。今回、実習に行く前に「生徒の先輩として何かアドバイスをする」ということを目標に決めました。進路のことを相談されて的確にアドバイスできた自信はないですが、何か心に残って考えるきっかけになってくれたら嬉しいです。実習期間は終わりましたが、要望があれば力になればいいなと思います。実習生の立場でも生徒の役に立てた時は嬉しいと感ずることができ、これが教職のやりがいなのだろうと気づきました。この実習は私の人生の中で素晴らしい経験になりました。

この経験を必ず生かしていきたいです。最後に、生徒のみなさん、先生方、特に指導教諭の先生には本当に感謝しています。ありがとうございました。